会　議　録

１　会議名

令和６年度第１１回名立区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

１ 自主的な審議（公開）

（１）不動地区の将来ビジョンについて

（２）自主的な審議テーマの検討について

２ その他事項（公開）

３　開催日時

令和７年３月２６日（水）午後６時３０分から午後７時５５分まで

４　開催場所

名立区総合事務所　第２会議室

５　傍聴人の数

０名

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　　員：池垣委員、石井委員、岡﨑委員、髙宮委員、中野委員、新田委員、二宮委員、畑委員、原田委員、矢沢委員

・事　務　局：桐木所長、沢田次長（総務・地域振興グループ長兼務）、塚田市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、木村地域振興班長

・不動生産森林組合：久保埜光夫理事

８　発言の内容

【木村班長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告する。

・原田会長に挨拶と議長を依頼する。

【原田会長】

・挨拶

・桐木所長に挨拶を求める。

【桐木所長】

・挨拶

【原田会長】

・事務局に資料の確認と会議録の確認者の発表を求める。

【木村班長】

・配布した資料の確認

・会議録の確認者：畑委員、矢沢委員

【原田会長】

・次第２、自主的な審議（１）不動地区の将来ビジョンについて、沢田次長へ説明を求める。

【沢田次長】

資料１－１、１－２により説明

【久保埜理事】

不動生産森林組合が管理するブナ林の概要、および現在の主な取組について説明

・大正７年に前身である不動施業森林組合を設立。約２，３００ｈａに及ぶ土地を持ち、国有林ではない点が全国でも珍しい。資本金は１，９４０万円（うち出資金は１９０万円、残りは現物出資としての土地)、組合員数７４人である。

・終戦後に燃料の需要によって盛んになった炭焼きのほか、坂本弁護士慰霊碑周辺や山全体で３回ほど伐採や間伐を行い、手入れをしてきたことで、現在すばらしいブナ林になっている。

・昭和４０年代には富山県の企業がブナを購入、良材は家具に使用されたこともあった。

・平成２８年から県の補助を受けて間伐事業を実施しているが、黒字経営まで至らなかった。その中で、ゆきぐに森林組合（大島、安塚、松代地域）へ、なめこ栽培に使用するおがくずとして売却してきた。そのほか、間伐材を運ぶ専用道を２，０００ｍ付けた。

・現在も県の助成を受け、年間１０ｈａ程度の間伐を目標にしている。１ｈａあたり４０立米、計４００立米の間伐材を出し、１０年目にしてようやく収益が順調に入るようになってきた。

・ミズノのパークゴルフのヘッドの用材にもなっている。

・令和６年の間伐材売却額が約３００万円、県からの補助金も入れると約２，０００万円。間伐は９年間で累計６０ｈａ、作業道（専用道とは別）は１２，０００m整備した。

・お金を生むことで地域に貢献できるので、この雪深い場所に住む人に還元できればと考えている。過去に、台風２４号による昭和４０年の災害により受益者負担が５～６００万円あったが、すべて組合から出したこともあった。今後も同様の地域貢献ができればよいと考えている。

【木村主任】

・足を踏み入れていない部分のブナ林の調査を行うため、令和６年度に新潟大学・村上拓彦准教授らがドローンによる測量を実施したほか、ヤマハ発動機（株）のラジコンヘリによるレーザー測量も行った。

【久保埜理事】

・人間のＭＲＩ撮影を行ったようなすごい撮影技術である。なぜ資源調査が必要なのかというと、お金を生むシステムをもう少し作りたいのでＪ－クレジットを利用したいから。Ｊ－クレジットを行うと、試算では木と山があるだけで大きな収入になると聞いている。

・市の水源でもあるので、組合も一丸となって山の整備をしながら潤沢な水を供給できるようにやっていきたい。

・無印良品直江津や津南キャンプ場での蒔販売など、市の協力も得ながら販路を広げたい。ほかには弁護士会から声がかかるなどしており、安定したお付き合いをしていきたい。

・組合は山を整備し、ウエルカムな体制で皆さんから来ていただけることに専念できればと思う。

【沢田次長】

・山は荒れてしまうと水源確保できなくなるため、ある程度間伐して良い材を残し、

維持していかなければならない。国や県は補助金を出し、間伐して山をきれいにするよう指導している。

・組合は間伐する重機を持っておらず、高齢者が多いため独自に間伐できないのが課題で、ゆきぐに森林組合に伐採や作業道を作ることを依頼している。そのため入ってきた補助金は、ゆきぐに森林組合にお支払いしている。

・建材やパークゴルフのヘッド用に、間伐した木材を売却することで収入となる。

・Jークレジットとは、企業が排出するＣＯ２（二酸化炭素）を相殺するために、ＣＯ２を吸収する枠を買い取るという仕組み。２０２６年から本格的に始まる見込み。

【二宮副会長】

・輝く里不動の会は、全世帯が入会しているのか。

【沢田次長】

・全６７世帯が入っている。数年前まで８０世帯近くあったが。

【二宮副会長】

・里山ファーム不動が集団営農を開始するとのことだが、不動地区だけが対象か。

【沢田次長】

・不動地区には約２０ｈａの農地があり、将来的には中山間地集落協定の補助金対象となる１４ｈａで行う見込み。

【原田会長】

・輝く里不動の会は、現在ホームページや冊子を発行し情報発信しているが、それ以外にＰＲは行っているか。

【沢田次長】

・Instagram（インスタグラム）で町内会の活動を発信しており、事務局の担当者一人が更新している。

【原田会長】

・活動の中心人物は私と同年代が多いが、後についてきてくれる人を育てる取り組みがあれば教えてほしい。

【沢田次長】

・不動生産森林組合の理事に４０代を起用したり、先頭になって活動している７５～６歳の方たちから、その下にいる７０歳から我々のような５０歳代へ活動を移した

りと、少しずつ世代交代を進めている。

【久保埜理事】

・不動生産森林組合は、例えば年俸でいくらと提示し協力者を仰ぐのもありと思う。Ｊークレジットや間伐材などの収入があれば、２人程度の雇用を想定して逆算してできることをやっていく方法もある。

【沢田次長】

・生業づくりは大切で、自分たちで間伐ができれば大きな収入となる。

【久保埜理事】

・重機を借りて去年初めて作業道を自ら作った。県や国の補助金を自分たちの収入とするため、色々と仕掛けが必要と感じている。

【沢田次長】

・地域おこし協力隊は国から報酬が出るが、３年の任期後どうするかが課題。この地域に興味ある人から来てもらい、３年後にこの地域で収入となるようなものがあれば良いと考え、導入を検討している。

【中野委員】

・水力発電の規模はどのくらいか。

【沢田次長】

・小水力発電なので、１９９キロワットを想定。約３００世帯／年を賄う規模で、売電収入は３，０００万円程を目指している。

・長野、富山県では小水力発電が進んでいる。富山県の五箇山では、合掌造りの屋根の葺き替え代数千万円を小水力発電の売電収入で賄おうとしている。

【原田会長】

・すばらしい景色を見たいために、不動山登山を行っている。そこに行かないと見られない資源をもっとＰＲできればよいのではないか。

【沢田次長】

・１０月にみずの森フェスティバルでも不動山の登山を実施している。市が登山道整備を毎年行っているし、登山会は年２～３回行うよう言われている。

【新田委員】

・みずの森フェスティバルの参加者はどのくらいなのか。

【沢田次長】

・今年度は、みずの森フェスティバル全体では５０人程。プログラムの一つである登山の参加者は３人。

【新田委員】

・登山は子どもでも登れるか。

【二宮副会長】

・小学校中～高学年であれば大丈夫と思う。

【原田会長】

・ここで久保埜理事へお礼を述べ、退席を促す。

－不動生産森林組合　久保埜理事　退席－

【原田会長】

・次第２、自主的な審議（２）自主的な審議テーマの検討について、木村班長へ説明を求める。

【木村班長】

資料２により説明

【原田会長】

・方向の一つとして、ホームページを中心として他のメディアとつなげていくようなイメージ。

【沢田次長】

・これまで名立観光協会や商工会のホームページで情報発信をしていたが、協会や商工会がなくなり役割を終えたため、代わるようなものをとも考えている。

【原田会長】

・（ＮＰＯ）名立の１００年後を創造する会はホームページを持っているが、ずっと更新していない。まちづくり未来ネット・名立は Instagram での情報発信を行っている。

・委員の皆さんが関わっている事例があれば紹介してほしい。Instagram をしている方はいるか。

【新田委員】

・個人のアカウントで Instagram をやっている。このお店に行って美味しかった、買ったなどの個人的な発信を行っている。

・団体で発信されたものであれば、名立の他の団体のタグ付けがされていると、私ならいいねを押したくなる。

【原田会長】

・名立観光協会が最初の頃に色々な企業の協賛バナーの貼り付けをしていた時期もあったが、利用企業も少なく、あまり発展していかなかった。

・ホームページを開けば、子育てや福祉など、名立の情報が見ることができるポータルサイトができれば一番良い。発信源であり情報源であるような。

・名立区総合事務所のホームページで行うのは難しいか。

【沢田次長】

・掲載基準がある。公の情報発信は可能だが、それ以外は厳しい。

【原田会長】

・ポータルサイトが欲しい思いはあるが、ホームページ管理を行う組織は大変である。

【沢田次長】

・商工会や観光協会の力を借りるのは難しいので、どのようにしていくのかが課題である。

【原田会長】

・ブログや Instagram からのスタートでもよい。情報発信したいと思う方が集まって一つの方向性が出せればよい。

【畑委員】

・地域団体の促進に力を入れるのはどうか。団体が活性化すれば、そこからいくらでも発信に進めるのではないか。

【原田会長】

・いろいろな振興会でも、個人で発信している人はいる。

・名立の子どもを守り育む会は、ホームページでの発信はしていないか。

【石井委員】

・していない。

・名立の子どもを守り育む会で、名立の史料を作成し配布したが、ネットに載せれば発信力はあると思う。誰が発信するかという問題はあるが。

【原田会長】

・委員の皆さんの知り合いに声をかければ、参加できる人がいそうだ。

【新田委員】

・Facebook（フェイスブック）だとフルネーム表示なのでわかるが、Instagram だとニックネーム表示なので誰だかわからない。

【原田会長】

・たくさんの方が見てくれることによって、上越高校のダンス部のように優勝できる例もある。ネットの力の強さを実感するし、見ているこちらも応援したくなる。

・組織や個人も含めていろんなところに声掛けし、名立の情報発信という点で話し合いの場を持てるように進めてよいか。

（一同了解）

【原田会長】

・次に次第３、その他事項について、皆さんから何かあれば発言をお願いしたい。

【石井委員】

・名立の子どもを育む会での評価委員、および昨日、運営委員会を実施し承認いただいたことにお礼を申し上げる。

【畑委員】

・ろばた館が今週で営業終了し４月から貸館として運営するが、使用料の具体的な通知は出ているか。

【木村班長】

・広報しずくに掲載した。入館料はかからず、部屋を使用するなら１時間あたりいくらの料金という設定。

【畑委員】

・２～３日前に利用したいというのは対応できるか。

【沢田次長】

・可能。ただし厨房の改修工事に入るため、大広間は使用できない。

（畑委員了解）

【二宮副会長】

・うみてらす名立について、リニューアルで進んでいることがあれば、事前に地域協議会で報告してもらいたい。

【桐木所長】

・令和７年度に基本構想に着手するということで、まだ何も決まっていない。令和１２年に向けてリニューアルすると聞いている。現在は運営会社の（株）ＢＪから市へ要望が上がっている段階である。

（二宮副会長了解）

【沢田次長】

・市の財政が厳しいため、売却できる財産は売って財源にしていこうとする方針の中で、市では財産の利活用の検討を行っている。大きなものでは廃校になった小中学校が対象。具体的には旧下名立小学校の体育館と校舎について、令和７年度に利活用対話型市場調査をさせてもらいたい。資産活用課が実施する。

（一同了解）

【二宮副会長】

・旧下名立分館で春に狂犬病の予防接種があるが、今までは円田壮だったが、会場が変わったようだ。

【沢田次長】

・確認して連絡する。

【原田会長】

・次回は連休前に開催予定である。

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

名立区総合事務所　総務･地域振興グループ　　TEL 025-537-2121（内線 5504）

E-mail: nadachi-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。